

第7回 Report

2024.2.15(木) 18:00~20:00 福岡商工会議所2階 第2研修室

参加者 / 16名
 チャレンジャー 9名
 他 オブザーバー 1名
 アドバイザー 1名
 事業実施者 3名
 市職員 2名

今回のテーマ

企画の実施状況や進捗について報告をし、企画の最終調整を行う

第7回は、各チームで実施している企画の実施状況や進捗について報告を行い、その後チームごとに今後の動きについて確認を行いました。



まずは、コーディネーターの木藤亮太さん（(株)ホーホウ 代表取締役）より、出張で訪れた他都市の事例

を紹介した後、商店街の支援のあり方について話をしました。「今回は商店街の応援団として、忙しい中、苦勞しながら事業を企画し、進めてくれている。その企画が今後商店街への関わり方に繋がっていくという風を感じている。」その後、各チームの実施状況や進捗の報告を行い、飛田先生のアドバイスも参考に、企画の最終調整や効果検証について話し合いました。

プログラム

- ①オープニング
- ②それぞれのチームの実施状況・進捗報告
 - 1、子ども商店街チーム@リーダー渡邊さん
 - 2、日常チーム@リーダー山本さん
 - 3、ウィキペディアチーム@リーダー伊藤さん
- ③グループでの打ち合わせ

子ども商店街チーム



飛田先生 |

チラシは誰を対象にしているのか？小学生であればルビが必要では。親を動かすのか子どもを動かすのかによってもチラシの作り方が変わるので、広報の仕方が今回のやり方でよかったのかは考えてほしい。また、子どもが親に「一緒に行こうよ」と言ったら「うん」と言わざるをえない状況をつくるには、どういう仕掛けが必要か考えると良いと思う。子どもに職業体験をさせるというのはすごく良いこと。子どもにとって商売を身近なものにすることで、金銭感覚や計算を身につけることができるなど、すごく良い効果があると思う。

日常（商店街ガイド）チーム



飛田先生 |

この企画の良いところは、商店街の中の人にとっては「日常」だけど、外からく人から見ると「非日常」というものがコンセプトとしてあるところ。知っているようで知らないことが知れる機会になる。このツアーは商店街の会長でガイドを務める齊藤さんたちがいるから成立する点はあるけれど、だからこそ、地域の言葉で喋ってくれるとか、その地域の人しか知らないことを喋ってくれることで成り立つ。他の地域でも同じ手法で成り立つと思う。（ガイドの）作り手によって同じ商店街でも見え方は違うので、単なる飲食店紹介ではなく、地域の魅力を深掘りする内容のテレビ番組を参考にすると違う切り口が出るかもしれない。

ウィキペディアチーム



飛田先生 |

イベントの導入部分で参加者に「入国審査」を行うことはすごく良い取組み。ただ、チラシに急に「入国審査」と書かれているだけだと、なぜ入国審査があるのかよくわからないため、アメリカをイメージできる写真入れた方が良いと思う。せっかくこだわっているのに、出国手続きもやると良いのでは？何らかの取組みに対してまちがざわつくのはイノベーション。面白い取組みを行っているのだから、取材をしてもらえるようにアプローチをしてみるのも良いと思う。